

🌸 奈文研の日越文化財協力事業

ベトナム政府は、かねてから日本の協力を得て中部クアンナム省ホイアン市、トゥアティエン・フエ省フォックティック村、北部ハノイ市ドウオンラム村において集落保存をおこない、日本の伝統的建造物群保存地区を下敷きとした文化財の保存と活用の両立をはかる制度を運用し、ホイアンは世界遺産になる等実績をあげています。奈良文化財研究所は日本政府のおこなう日越文化財協力事業の一翼を担い、これまで国内で培った伝建保存対策調査のスキルを生かしてベトナムで集落調査をおこなってきました。

ティエンザン省カイバー県はベトナム南部のメコンデルタに位置し、メコン川支流に面する中心部は物資の集散地として栄えました。今回ベトナムの国家文化財となったドンホアヒエップ村はカイバー市街地北郊にあり、水利を活かし、開拓期の19世紀には稲作、近年では果樹栽培をおこなっている村です。メコン川の支流同士をつなぐ運河沿いの敷地に洋風の外観の混じる伝統的な住宅の主屋が建ち、背後に果樹園が広がる緑豊かな農村景観は多くの旅行者を魅了しています。

今回の国家文化財指定は、奈文研が2011年から2013年にかけて実施した調査にもとづいておこなわれています。12月1・2日には外務省在ホーチミン領事や国際交流基金ハノイセンター長の出席のもと指定記念式典が現地でおこなわれ、その一環として国内や日本の保存地区関係者を招いてのシンポジウム、伝統的民家における茶道、華道、書道、日本料理等の実演がおこなわれました。

ベトナムの事例は文化財を通じた国際協力の成功例として自負できるもので、今後も、その保存と活用等に積極的に協力していきたいと考えています。

(文化遺産部 林良彦)



主屋と副屋が並ぶ伝統的家屋